

令和7年度事業報告（活動状況の概要）

1. 個別事項

（1）歯科医療提供体制等について

1. 第5回理事会（R7.11.13）において、藤井副会長から資料により、令和7年7月1日に、歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ第1回が開催されたこと及びこのワーキンググループは、歯科医療体制等に関する検討会のもとで、歯科医師の必要数や適切な配置に関する具体的な分析について議論するために設置されたものであるとの報告があった。
2. 第5回理事会（R7.11.13）において、藤井副会長から資料により、令和7年9月30日、10月16日に、歯科医療提供体制等に関する検討会及び歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループが合同開催され、歯科医師の地域偏在等について、各関係機関からヒアリングが行われたこと及びヒアリングの中で、歯科診療所のない地域に歯学部から、歯科医師を派遣することについての意見があったことなどの報告があった。
3. 第6回理事会（R8.2.12）において、藤井副会長から資料により、歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループが令和7年11月20日及び12月19日に開催され、検討が進められているが、今のところ、歯科医師の必要人数を出すには至っていないとの報告があった。
4. 第7回理事会（R8.3.30）及び第101回臨時総会（R8.3.30）において、藤井副会長から資料により、令和8年2月27日及び3月19日に歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループが開催されたこと及び検討されている報告書（案）の歯科医師の需要推計について、歯科医師の需給推計について「今回行った歯科医師の供給推計と需要推計によると、高齢者の数がピークに達するとされている2040年において、供給推計が需要推計をやや上回ると推計された」との記述に関して、今後、推計の際の諸条件が変わってくれば、推計結果も違ったものになることから、2040年において歯科医師過剰ということのみが独り歩きしないように、記述の工夫が必要であるとの意見が多数の委員からあり、引き続き、検討することとなったとの報告があった。

（2）共用試験について

1. 令和7年12月17日に、厚生労働省医政局歯科保健課からの要請により、全会員校からの出席を得て、歯学生共用試験の実施時期統一に関する意見交換会が開催された。

2. 令和 8 年 1 月 15 日に、歯学生共用試験の実施時期統一の方向性について、厚生労働省医政局歯科保健課から事前説明があり、羽村会長、藤井副会長、櫻井副会長が出席した。

3. 第 6 回理事会（R8.2.12）において、羽村会長から資料により、令和 7 年 12 月 17 日に、歯学生共用試験の実施時期統一に関しての意見交換会が開催されたこと及び各会員校の先生方にも出席をお願いして意見を述べていただいたこと並びに私立歯科大学・歯学部からの意見としては、すべて歯学生共用試験の実施時期を統一する必要はないとのことであったとの報告があった。

また、令和 8 年 1 月 15 日に、歯学生共用試験の実施時期統一の方向性について、厚生労働省医政局歯科保健課から事前説明があり、羽村会長、藤井副会長、櫻井副会長が出席したこと及び説明としては、当面は歯学生共用試験の実施時期は統一しないという内容で、医道審議会歯科医師分科会歯学生共用試験部会に提案することとしたいとのことであったとの報告があった。

続いて、藤井副会長から資料により、令和 8 年 1 月 23 日に第 1 回医道審議会歯科医師分科会歯学生共用試験部会が開催され、部会として課題となっていた、評価の体制、医療面接の模擬患者及び共用試験の実施時期を統一することの是非について検討が行われたこと及び令和 8 年 2 月 2 日に第 2 回医道審議会歯科医師分科会歯学生共用試験部会が開催され、第 1 回の議論を踏まえてまとめられた「令和 8 年以降の共用試験に関する意見（案）」について審議されたことの報告があった。

4. 第 7 回理事会（R8.3.30）及び第 101 回臨時総会（R8.3.30）において、藤井副会長及び櫻井副会長から資料により、医道審議会歯科医師分科会歯学生共用試験部会において取りまとめられ、令和 8 年 3 月 6 日に公表された、「令和 8 年度以降の共用試験に関する意見」について、今後の評価体制、医療面接模擬患者の運用に関する予定及び実施時期については当面統一しないこととなったこと等の報告があった。

（3） 歯科医師国家試験について

1. 令和 8 年 1 月 31 日及び 2 月 1 日に実施された、第 119 回歯科医師国家試験の不適切な問題について、各大学から厚生労働省に提出した意見を、令和 8 年 2 月 13 日、2 月 20 日及び 2 月 27 日の 3 回に分けて、協会からも羽村会長名で厚生労働省に意見を提出した。

2. 第 7 回理事会（R8.3.30）及び第 101 回臨時総会（R8.3.30）において、中山事務局次長から資料により、令和 8 年 3 月 16 日に合格発表のあった、第 119 回歯科医師国家試験の合格者数等について、合格率が新卒者で 80.2%（前年

度 84.0%)、全体で 61.9% (前年度 70.3%) と、合格率が大幅に低下していること及び合格者数が前回より 379 人も減っていることなどの報告があった。

この結果について、理事会において、種々意見交換がなされ、協会として厚生労働省に意見書を提出することとした。

また、合格発表当日には、厚生労働省から合格発表資料を入手し、直ちに、会員校にメールで情報を提供した。

【第 119 回】

	(出願者数)	(受験者数)	(合格者数)	(合格率)
新卒者	2,187 人	1,849 人	1,482 人	80.2%
全 体	3,219 人	2,837 人	1,757 人	61.9%

(昨年の状況)

【第 118 回】

	(出願者数)	(受験者数)	(合格者数)	(合格率)
新卒者	2,310 人	1,973 人	1,657 人	84.0%
全 体	3,431 人	3,039 人	2,136 人	70.3%

(4) 中央教育審議会 我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システム再構築～(答申)について

第 100 回定時総会 (R7.6.9) 終了後、文部科学省高等教育局高等教育企画課高等教育政策室企画官・室長 高見英樹氏による『我が国の「知の総和」向上の未来像答申を踏まえた今後の高等教育政策について』の講演を実施した。

(5) 教育・学習の質向上に向けた新たな評価について

1. 第 1 回理事会 (R7.5.26) において、白石事務局長から資料により、中央教育審議会「知の総和答申」を受け、認証評価や出口保証等を検討するために設置された、中央教育審議会大学分科会質向上・質保証システム部会 (第 1 回) が、令和 7 年 4 月 24 日に開催され、部会の下に「教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループ」を設けて、新たな「質向上・質保証システム」の構築に向けた作業を進めることが決定されたとの報告があった。
2. 第 2 回理事会 (R7.6.9) 及び第 100 回定時総会 (R7.6.9) において、白石事務局長から資料により、令和 7 年 5 月 28 日に、教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループ (第 2 回) が開催され、各認証評価機関に対するヒアリングが行われたとの報告があった。
3. 第 5 回理事会 (R7.11.13) において、議事の前に、文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐 赤岩寛之氏から、『「教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループ」の検討状況について』の説明があった。
また、白石事務局長から資料により、教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループが、令和 7 年 6 月 10 日 (第 3 回)、7 月 3 日 (第 4

回)、7月28日(第4回)、8月4日(第5回)に開催されたこと及びその概要については、本理事会の冒頭の文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐 赤岩寛之氏による行政説明のとおりであるとの報告があった。

加えて、白石事務局長から資料により、令和7年9月3日に中央教育審議会大学分科会が開催され、大学関係の諸会議等の検討の取りまとめ分科会として、教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループ、2040年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議及び地域大学振興に関する有識者会議等における検討内容について審議が行われたとの報告があった。

4. 第6回理事会(R8.2.12)において、白石事務局長から資料により、令和7年10月22日に開催された、教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループ(第4回)の概要について報告があった。

5. 第6回理事会(R8.2.12)において、白石事務局長から資料により、令和8年1月21日に開催された、教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループ(第7回)の概要について報告があった。

6. 第7回理事会(R8.3.30)及び第101回臨時総会(R8.3.30)において、白石事務局長から資料により、令和8年2月16日に開催された中央教育審議会大学分科会教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループ(第8回)での審議状況について、4段階の「評価試案」が示されたこと等の報告があった。

関連して、第7回理事会において、羽村会長から、新たな評価制度が2030年度から始まる予定であることと、現行の歯学教育評価が2028年度で終了することで、1年間の空白が生じることへの対応について、大学基準協会と協議中であるとの報告があった。

(6) 2040年度を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方について

1. 第1回理事会(R7.5.26)及び第100回定時総会(R7.6.9)において、白石事務局長から資料により、2040年度を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議(第2回)が、令和7年4月24日に開催され、急激な少子化を見据えた大学経営の在り方について等を議題として、有識者等からのヒアリング及び意見交換が行われたとの報告があった。

2. 第5回理事会(R7.11.13)において、白石事務局長から資料により、2040年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議が、令和7年6月18日(第3回)、7月28日(第4回)に開催され、これまでの議論を踏まえて、令和7年8月29日に「社会とともに歩む私立大学の変革への支援強化パッケージ」が取りまとめられたこと及び「社会とともに歩む私立大学の変革への支援強化パッケージ」の深化のために、令和7年9月26日(第5回)開催の会議から議論が再開されているとの報告があった。

3. 第 6 回理事会 (R8. 2. 12) において、白石事務局長から資料により、令和 7 年 11 月 20 日 (第 6 回) 及び 12 月 15 日 (第 7 回) に開催された、教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループの概要について報告があった。
4. 第 7 回理事会 (R8. 3. 30) 及び第 101 回臨時総会 (R8. 3. 30) において、白石事務局長から資料により、令和 8 年 2 月 18 日に「2040 年を見据えて社会とともに歩む私立大学の在り方検討会議」の審議まとめが公表されたこと等の報告があった。

(7) 地域大学振興について

1. 第 5 回理事会 (R7. 11. 13) において、白石事務局長から資料により、地域大学振興に関する有識者会議が、令和 7 年 6 月 10 日 (第 2 回)、7 月 31 日 (第 3 回)、10 月 22 日 (第 4 回) に開催されたこと及び会議において、地域大学振興に関する今後の取組等について議論されているとの報告があった。
2. 第 101 回臨時総会 (R8. 3. 30) において、白石事務局長から資料により令和 7 年 10 月 22 日 (第 4 回) 及び令和 8 年 1 月 30 日 (第 5 回) に、地域大学の振興に関する有識者会議が開催され、地域大学振興策について議論されたとの報告があった。

(8) 文部科学省高等教育局医学教育課との意見交換について

1. 令和 7 年 4 月 17 日に、文部科学省高等教育局医学教育課の課長、課長補佐、医学教育係長の異動があったことから、羽村会長、大友、藤井、一戸副会長、櫻井専務理事及び協会事務局が文部科学省に出向いて、挨拶及び意見交換・要望を行った。
2. 第 1 回理事会 (R7. 5. 26) 及び第 100 回定時総会 (R7. 6. 9) において、羽村会長から資料により、令和 7 年 4 月 1 日に、文部科学省高等教育局医学教育課の課長、課長補佐、医学教育係長の異動があったことから、令和 7 年 4 月 17 日に、羽村会長、大友、藤井、一戸副会長、櫻井専務理事及び協会事務局が文部科学省に出向いて、挨拶及び意見交換・要望を行ったことの報告があった。
意見交換、要望事項等の内容については以下のとおりである。
(1) 歯科医師国家試験合格者数の制限の撤廃について、(2) 新たな大学評価制度の導入に際しての歯学部取り扱いについて、(3) 令和 6 年度に公的化された共用試験に関する要望について、(4) 歯科医師国家試験の在り方について、(5) 歯学部附属病院における病床保有義務の撤廃又は緩和について、の 5 事項について、意見交換等の概要について各出席者から報告があった。

(9) 附属病院の感染対策について

1. 第 17 回私立医科大学病院感染対策協議会総会 (R7. 9. 13) が、久留米大学が当番校となり開催され、本協会から福岡歯科大学の橋本憲一郎先生及び鶴見大学歯学部の大島朋子先生が代表として出席した。
2. 第 27 回国公立大学附属病院感染対策協議会 (R7. 11. 10~11) が、大阪公立大学医学部が当番校となり開催され、本協会から大阪歯科大学の松本和浩先生及び松本歯科大学の栗原祐史先生が代表として出席した。
3. 第 17 回附属病院感染対策協議会 (R8. 2. 24) を開催し、日本歯科大学附属病院口腔外科 松野智宣教授による「抗微生物薬適正使用の手引き 第四版 歯科編のポイント」の講演を行い、続いて、第 17 回私立医科大学病院感染対策協議会総会の概要について、福岡歯科大学の橋本憲一郎先生から、また、第 27 回国公立大学附属病院感染対策協議会の概要について、大阪歯科大学の松本和浩先生から報告があった。
さらに、「歯科診療における院内感染対策に関するアンケート調査」結果について、アンケートの取りまとめを担当した、明海大学歯学部の星野倫範先生及び松本歯科大学の栗原祐史先生から説明があった。
なお、協議会には、文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室専門官 梶山早苗氏、公立大学附属病院感染対策協議会会長 大毛宏喜介氏、同協議会歯科医療部会委員長 太田耕司氏及び私立医科大学病院感染対策協議会事務局長 中澤 靖氏が来賓として出席した。
4. 第 7 回理事会 (R8. 3. 30) 及び第 101 回臨時総会 (R8. 3. 30) において、高橋常務理事から、第 17 回附属病院感染対策協議会の開催概要について報告があった。

(10) 「広報戦略」事業について

①第 16 回歯科プレスセミナー

1. 第 16 回歯科プレスセミナー (R7. 10. 28) を、「口腔細菌と全身疾患の関係」をテーマに、アルカディア市ヶ谷を会場にハイブリッド方式にて開催し、(1) 櫻井副会長による、『「歯科医師」の現状、歯科医師へのニーズの高まり』についての説明 (2) 日本歯科大学生命歯学部歯周病講座主任教授 沼部幸博氏による、「口腔細菌と全身疾患の関係から考える歯科医療の未来 歯周病と全身疾患との関連の展望」の基調講演及び (3) 『歯科医師・医療者が語る「口腔から考える全身の健康」』をトークテーマに、宇田川専務理事をコーディネーターとし

て、羽村会長、花形歯科医院院長 花形哲夫氏、昭和医科大学教授 塚崎雅之氏の3人をパネリストとしたパネルトークを行い、24名の記者等の出席があった。
また、記者等とは別に、会員校の教職員47名の参加があった。

2. 第5回理事会（R7.11.13）において、宇田川専務理事から資料により、令和7年10月28日に、第16回歯科プレスセミナーを「口腔細菌と全身疾患の関係」をテーマに開催し、会場及びオンラインにより、約70人の出席があったとの報告があった。
3. 第6回理事会（R8.2.12）及び第101回臨時総会（R8.3.30）において、宇田川専務理事から資料により、令和7年10月28日に、第16回歯科プレスセミナーを「口腔細菌と全身疾患の関係」をテーマにハイブリット形式で開催し、会場及びオンラインにより多数の出席者があったこと及び報道効果について、広告換算で実施経費約723万円に対して、約2.3倍以上の効果が得られたこと及びYouTubeに掲載した動画の視聴回数は、156.3万回にもなっているとの報告があった。

②Instagramによる研究成果発信のEPARK 歯科との連携事業

1. 第1回理事会（R7.5.26）において、白石事務局長から資料により、賛助会員企業であるエンパワーヘルスケア株式会社から、会員校が発表する研究成果をEPARK 歯科のInstagram上で発信することについての提案があったこと及び実施について協会としての経費負担はないことの説明の後、連携事業の実施について承認した。
2. 第100回定時総会（R7.6.9）において、白石事務局長から資料により、EPARK 歯科とのInstagramを活用した情報発信の連携事業を令和7年5月から開始し、令和7年5月29日に第1回として日本大学歯学部の研究「お口の健康がインフルエンザ予防につながる？」を配信したこと及び今後、月1回のペースで、各会員校の研究成果の配信を予定しているとの報告があった。
3. 第2回以降、下記のとおり配信した。
 - (1) 令和7年6月30日：【新事実】口と腸の健康はつながっている！～口腔環境を守るカギは”腸”だった～福岡歯科大学
 - (2) 令和7年7月31日：歯が自分で治る!?～歯の再生を担う細胞の正体とは～東京歯科大学
 - (3) 令和7年9月26日：口の中で健康を見守る口腔内センシングデバイス
昭和医科大学歯学部

- (4) 令和 8 年 3 月 30 日：ケガのあと、筋肉が” 骨のようになる” ことがある
松本歯科大学

(11) 私立歯科大学（学部）の財政等の現状に関する調査について

1. 令和 7 年度から、調査方式を従前の紙から電子媒体に変更するとともに、調査対象年度を、これまでの前々年度から前年度に変更することに伴い、移行期として令和 7 年度は、令和 5 年度及び令和 6 年度、2 年分の調査を実施することとした。
2. 令和 7 年 7 月 31 日に調査依頼をして、令和 7 年 12 月 26 日に調査結果を、各会員校に送付した。

(12) 広報発行(第 90 号・第 91 号)について

1. 令和 7 年度第 1 回広報委員会（R7. 6. 25、メール会議）を開催し、協会広報「第 90 号及び 91 号」の掲載内容等について協議し、従来どおり、年 2 回発行すること及び掲載項目については、前年度と同様とすることを決定した。
2. 第 5 回理事会（R7. 11. 13）及び第 101 回臨時総会（R8. 3. 30）において、福本常務理事から、令和 7 年度第 1 回広報委員会での協議概要について報告があった。
3. 前年度と同様の掲載項目で、広報第 90 号を令和 7 年 9 月付け、広報第 91 号を令和 8 年 3 月付けで発行した。

【掲載項目】

1. 巻頭言
2. 大学のニュース
3. 事業概要
4. 日本私立歯科大学協会関係の諸会議
5. 叙勲
6. 訃報
7. 人事異動消息
8. 協会役員・部会・委員会名簿
9. 一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿
10. 賛助会員企業紹介
11. 編集後記

(13) 受験生確保対策事業について

①受験生確保対策委員会

1. 令和7年度第1回受験生確保対策委員会（R7.9.9、WEB会議）を開催し、前年度実施事業の報告及び令和7年度に実施する事業の検討などを行った。
2. 第5回理事会（R7.11.13）及び第101回臨時総会（R8.3.30）において、福本常務理事から、令和7年度第1回受験生確保対策委員会での協議概要について報告があった。

②高等学校等への入試関係資料の送付

令和7年11月7日までに、普通科及び総合学科の高校4,138校、予備校155校に参考資料を送付するとともに、協会ホームページに掲載した。

③協会ホームページによるPR

協会ホームページの全入試日程及び各大学入試要項のコーナー等を活用して、入試情報の広報に努めた。

その結果、令和7年度一年間で63,337人がホームページを訪れ、4,713,915回ホームページ内のページが開かれた。

④高校生向け冊子「歯学部へ行こう!!」の配布

1. 第1回理事会（R7.5.26）において、福本常務理事から資料により、「歯学部へ行こう!!2025」について、資料のとおり発刊し、令和7年4月24日に進研アドを通じて、医療系学部への進学を目指している高校2年生8,000人の自宅に送付し、また、ダイヤ書房に委託して、令和7年5月上旬から、進学情報配布のためのWingBoxを通じて、年間60,000部の配布を開始するとともに、WingBox未設置の進学校834校の進路指導部に各10部送付したこと及びこれらのために、広告料として各会員校に22万円を負担していただき、協会からは、約519万円を支出したとの説明があった。

続いて、令和7年度入試においては、私立歯科大学・歯学部への志願者・入学者が大きく増加しており、引き続き、受験生を確保する上で、大切な事業と考えており、令和7年度においても、「歯学部へ行こう!!2026」を作成し配布すること及び配布先・配布方法等は令和6年度と同様としたいとの説明の後、「歯学部へ行こう!!2026」を作成し配布してよいかとの提案があり、これを承認した。

2. 第100回定時総会（R7.6.9）において、福本常務理事から資料により、「歯学部へ行こう!!2025」の作成・配布状況の説明があり、続いて、令和7年5月26日に開催した令和7年度第1回理事会において、「歯学部へ行こう!!2026」を作成すること及び配布先を前年同様とすることが承認されているとの報告があった。

⑤Instagram による「歯学部へ行こう！」概要発信の EPARK 歯科との連携事業

1. 第5回理事会（R7.11.13）において、福本常務理事から資料により、賛助会員のエンパワーヘルスケア株式会社から、受験生向け冊子「歯学部へ行こう!!」の内容をコンパクトにまとめて、Instagramで公開することの提案があり、この実施について、理事の皆様はメールにて事前に意見をお伺いしたところ、賛成の意見の他は、特段の意見がなかったことから、実施することとして、7月25日から8月22日の間に7回に分けて公開したとの説明があった。

これらについては、実施済みであるが、協会の事業として実施することにしてよいかとの提案があり、これを承認した。

2. 下記のとおり配信した。

- (1) 第1回 歯科医師の魅力
- (2) 第2回 私立歯科大学・歯学部の魅力
- (3) 第3回 歯科医師Q & A
- (4) 第4回 歯科医師のイメージ
- (5) 第5回 歯科医師の給料・年収
- (6) 第6回 歯科医師の就職率と求人倍率について
- (7) 第7回 女性歯科医師が活躍しています！

⑥令和7年度文部科学省「こども霞が関見学デー」への出展

1. 第1回理事会（R7.5.26）において、白石事務局長から資料により、令和7年8月6日、7日に開催される、令和7年度「こども霞が関見学デー」へ、文部科学省での出展をしたいこと及び出展に際しては、こどもへの体験活動の実績のある、日本歯科大学生命歯学部を担当していただくことを考えているとの説明の後、説明のとおり出展してよいかとの提案があり、これを承認した。

2. 第100回定時総会（R7.6.9）において、白石事務局長から資料により、令和7年8月6日、7日に開催される、令和7年度文部科学省「こども霞が関見学デー」へ出展することとして準備を進めていること及び出展にあたっては、日本歯科大学生命歯学部は協力をお願いして、体験型プログラム「ハノシゴトー歯科の仕事体験しよう！」の出展を計画しているとの報告があった。

3. 令和7年8月6日、7日に、日本歯科大学生命歯学部との共催事業として、令和7年度文部科学省「こども霞が関見学デー」へ出展した。
4. 第5回理事会（R7.11.13）及び第101回臨時総会（R8.3.30）において、羽村会長から資料により、令和7年8月6日、7日に、日本歯科大学生命歯学部を担当していただき、文部科学省「こども霞が関見学デー」へ出展したこと、募集定員100人は、ホームページでの募集公開後1日半で埋まるほどの人気であったこと及び当日欠席もあり、参加者は78人であったとの報告があった。
また、令和8年度も引き続き、出展することとしており、協力いただける会員校を募集する予定であるとの説明があった。

⑦メルリックス学院「全国歯学部合同説明会」への後援

1. メルリックス学院から、「全国歯学部合同説明会」への後援名義使用申請があり、令和7年4月14日付けで、後援名義使用の許可をした。
2. 第5回理事会（R7.11.13）において、福本常務理事から資料により、メルリックス学院主催「全国歯学部合同説明会」は、協会の後援事業として実施されているものであり、令和6年度に比べて、出席者が大幅に増加していること及び令和7年12月についても開催を依頼しているが、私立医学部の試験日程が大きく変更になっている大学が多いことから、受験指導に手間がかかっている関係で、12月の開催は未定である旨の連絡があったことの報告があった。
3. 第101回臨時総会（R8.3.30）において、福本常務理事から資料により、本説明会は協会の後援事業として実施されているもので、令和7年7月21日に開催され、令和6年度に比べて、出席者が大幅に増加したこと及び令和7年12月の開催予定は、メルリックス学院の業務の都合により、開催されなかったとの報告があった。

⑧入学志願者の状況調査等

1. 第1回理事会（R7.5.26）及び第100回定時総会（R7.6.9）において、中山事務局次長から資料により、協会を取りまとめた、令和7年度入試結果について、志願者が前年度に比べて、776人増加（+9.72%）、入学者が160人増加（+10.48%）となったことなどの報告があった。
2. 第6回理事会（R8.2.12）において、中山事務局次長から資料により、令和8年2月5日現在における令和8年度入試志願者状況について、前年の同時期との比較で学校推薦型選抜、総合選抜等、一般選抜・大学共通テスト利用選抜等すべての区分において、志願者数が増加していること及び特に、一般選抜・大学共通

テスト利用選抜等の志願者については、20.8%増加していることの報告があった。

3. 第7回理事会（R8.3.30）及び第101回臨時総会（R8.3.30）において、中山事務局次長から資料により、令和8年度入学志願者・受験者状況（中間状況）について、令和8年3月25日現在において、志願者数が前年度の最終志願者数に比べて、2,529人増えて、+28.9%となったこと及び受験者数が前年度の最終受験者数に比べて、2,458人増えて、+30.7%となったことの報告があった。

（14）第 87 回私立大学歯学部学生生活協議会について

1. 第 87 回私立大学歯学部学生生活協議会（R7.9.26）を、神奈川歯科大学を開催当番校として開催し、各大学から提出された議題について、情報交換と協議を行った。
2. 第 5 回理事会（R7.11.13）及び第 101 回臨時総会（R8.3.30）において、本田常務理事から資料により、令和 7 年 9 月 26 日に、第 87 回私立大学歯学部学生生活協議会を、神奈川歯科大学を開催当番校として開催し、17 大学・歯学部から 44 人の参加があったとの報告があった。

（15）事務局長会議の開催方法の変更について

第 1 回理事会（R7.5.26）において、櫻井専務理事から、令和 7 年 5 月 16 日に開催した、令和 7 年度第 1 回事務局長会議の協議の中で、年一回会員校に持ち回りで開催をお願いしていた会議を令和 7 年度以降は協会の主催で開催することを決定したことの報告があった。

（16）研修事業について

①研修委員会

第 5 回理事会（R7.11.13）において、小林常務理事から及び第 101 回臨時総会（R8.3.30）において、白石事務局長から資料により、令和 7 年 7 月 1 日に、令和 7 年度第 1 回研修委員会を書面会議により開催し、第 46 回附属病院管理運営事務研修会を、日本大学松戸歯学部を当番校として、令和 7 年 10 月 3 日にアルカディア市ヶ谷で開催すること及び第 15 回教務研修会を、「共用試験公的化後の歯学教育の現状について」をテーマに、令和 7 年 11 月 27 日、28 日にアルカディア市ヶ谷で開催すること等の協議が行われたとの報告があった。

②第 46 回附属病院管理運営事務研修会

1. 第 46 回附属病院管理運営事務研修会（R7. 10. 3）を、日本大学松戸歯学部を開催当番校として開催し、各大学から提出された議題について、情報交換と協議を行った。
2. 第 5 回理事会（R7. 11. 13）において、小林常務理事から及び第 101 回臨時総会（R8. 3. 30）において、白石事務局長から資料により、令和 7 年 10 月 3 日に、第 46 回附属病院管理運営事務研修会を、日本大学松戸歯学部を開催当番校として開催し、17 大学・歯学部から 34 人の参加があったとの報告があった。

③第 15 回教務研修会

1. 第 5 回理事会（R7. 11. 13）において、小林常務理事から資料により、令和 7 年 11 月 27 日、28 日に、第 15 回教務研修会を「共用試験公的化後の歯学教育の現状について」をテーマに開催する予定であるとの報告があった。
2. 令和 7 年 11 月 27 日、28 日に、第 15 回教務研修会をアルカディア市ヶ谷にて開催した。
3. 第 101 回臨時総会（R8. 3. 30）において、藤井副会長から資料により、令和 7 年 11 月 27 日、28 日に、「共用試験公的化後の歯学教育の現状について」をテーマに第 15 回教務研修会を開催し、1 日目に医療系大学間共用試験実施評価機構 斎藤隆史氏による基調講演「共用試験の信頼性と妥当性—CBT を中心に—」並びに教育・研究部会において委員から要望が多かった、教育・診療等における AI の活用について、文部科学省高等教育局専門教育課専門官 今井新悟氏による「大学における数理・データサイエンス・AI 教育の推進」及び WHITE CROSS 株式会社 代表取締役社長 赤司征大氏による「歯科医療・教育における AI の活用」の特別講演を実施し、2 日目は「共用試験公的化・何を目指すか、これからの課題」をテーマにシンポジウム及び班別研修において、現状報告と情報交換を行ったとの報告があった。

(17) 日本私立歯科大学協会設立 50 周年記念事業等について

①設立 50 周年記念式典・記念講演会、記念祝賀会

1. 第 1 回理事会（R7. 5. 26）及び第 100 回定時総会（R7. 6. 9）において、櫻井専務理事から資料により、令和 7 年 5 月 7 日に、第 1 回日本私立歯科大学協会設立 50 周年記念祝賀会実施委員会を開催し、記念祝賀会を令和 8 年 7 月 31 日の午後にホテルメトロポリタンエドモントにおいて開催すること及び各会員校からの出席者を 4 名程度とすることなどの案を協議・決定したとの報告があった。

2. 第5回理事会（R7.11.13）において、櫻井副会長から資料により、令和7年7月10日に第2回設立50周年記念祝賀会実施委員会を開催し、記念式典、記念講演会、記念祝賀会を令和8年7月31日にホテルメトロポリタン エドモントで開催すること及びプログラム、招待者、功労者感謝状贈呈対象者等について協議を行ったとの報告があった。
3. 第6回理事会（R8.2.12）において、櫻井副会長から資料により、令和7年12月10日に第3回設立50周年記念祝賀会実施委員会を開催し、記念式典、記念講演会及び記念祝賀会について協議し、令和8年7月31日に開催することの確認、4月上旬に案内状を発送すること及び元会長、副会長に表彰状、在籍10年以上の賛助会員企業に感謝状を贈呈することなどを決定したとの報告があった。
4. 第101回臨時総会（R8.3.30）において、櫻井副会長から、設立50周年記念式典・記念講演会及び記念祝賀会は、令和8年7月31日にホテルメトロポリタンエドモントにて開催することとして、委員会でプログラム等の検討を行ってきており、日程案の説明及び令和8年4月15日を締め切りとして、各会員校に6名以内の出席案内状送付先の推薦を依頼中であるとの報告があった。

②設立50周年記念誌

1. 第1回理事会（R7.5.26）及び第100回定時総会（R7.6.9）において、藤井副会長から資料により、令和7年5月9日に、第3回日本私立歯科大学協会設立50周年記念誌編集委員会を開催し、記念誌第3部協会設立30年～50年の歴史、第4部協会活動の概要と記録及び第6部加盟17歯科大学の概要部分を中心に協議し、各内容及び執筆者などの案を決定したとの報告があった。
加えて、第6部加盟17歯科大学の概要については、7月以降、各大学に12月締め切りで、原稿提出をお願いする予定としているので、ご協力願いたいとの依頼があった。
2. 第5回理事会（R7.11.13）において、藤井副会長から資料により、令和7年6月12日に第4回及び令和7年7月28日に第5回設立50周年記念誌編集委員会を開催し、全体項目、執筆要領等について協議を行い、その後、原稿執筆の依頼をして、原稿が集まりつつある状況であるとの報告があった。
3. 第6回理事会（R8.2.12）において、藤井副会長から資料により、令和7年12月5日に、第6回設立50周年記念誌編集委員会を開催して、記念誌編集の進捗状況などの確認を行ったこと及び順調に編集作業が進んでいるとの報告があった。

4. 第101回臨時総会（R8.3.30）において、藤井副会長から資料2により、設立50周年記念誌は、各執筆者に原稿執筆を依頼し、いただいた原稿を印刷原稿に編集し、校正中であること及び令和8年12月に刊行する予定であるとの報告があった。

（18）協会の資産運用について

1. 第6回理事会（R8.2.12）において、白石事務局長から資料により、協会の基本財産の内の無利子型普通預金の5,000万円について、利息が得られる他の形で運用してはどうか、このため資金運用規程を制定したいとの説明があり、種々議論の後、議論を踏まえ運用方法及び開始時期について、羽村会長に一任することとした。

また、資金運用規程（案）については次回の理事会で改めて審議することとした。

2. 第7回理事会（R8.3.30）において羽村会長から資料により、資産運用規程（案）について、今回提案する規程案は、前回、令和7年度第6回理事会における、審議時の意見を踏まえて、修正した規程案を提案するものであり、本規程案は事前に理事の皆様にもメールで、ご意見をお伺いしており、特段の意見はなかったとの説明の後、規程を承認した。

続いて羽村会長から、規程第6条に規定する資産運用会議の構成員の内「会長が指名する副会長又は常務理事1名」については、宮田副会長を指名すること及び今後、資産運用会議を開催して、現在、無利息型の普通預金に預けている5,000万円を資金にして、4月に販売される新窓販国債10年を購入することを計画している旨の説明があった。

3. 第101回臨時総会（R8.3.30）において、羽村会長から資料により、本日（令和8年3月30日）、開催した、令和7年度第7回理事会において、日本私立歯科大学協会資産運用規程の制定が承認されたこと及び令和8年4月から、協会の資産のうち、無利子型普通預金の5,000万円を新窓販国債10年で運用することを計画しており、年間約80万円程度の利息による収入増を見込んでいるとの報告があった。

（19）協会研修員の募集について

1. 第6回理事会（R8.2.12）において、羽村会長から宮田副会長より、他団体と同様に、協会も研修員の募集をしてはどうかと提案があったことを受けてのものである旨の説明があった後、白石事務局長から資料により、研修員募集要項（案）について説明があり、説明のあった内容で、研修員を募集してよろしいか、また、募集要項を決定してよろしいかとの提案があり、これを承認した。

2. 第7回理事会（R8.3.30）及び第101回臨時総会（R8.3.30）において、羽村会長から、令和7年度第6回理事会で承認された、日本私立歯科大学協会研修員募集要項に基づき、令和8年度の研修員の募集をしたが、急なことであったため、協力いただける会員校はなかったことの報告及び令和9年度に向けて、研修員派遣の検討をお願いしたいとの依頼があった。

(20) 災害歯科保健医療連絡協議会について

1. 第5回理事会（R7.11.13）において、白石事務局長から資料により、令和7年8月27日に第20回日本災害歯科保健医療連絡協議会が開催され、主な議題は、令和7年度に開催する研修会の計画などであったとの報告があった。
2. 第7回理事会（R8.3.30）及び第101回臨時総会（R8.3.30）において、櫻井副会長から資料により、令和8年2月25日に開催された第22回日本災害歯科保健医療連絡協議会では、JDAT 養成支援事業及び初動時の日歯想定優先応援都道府県歯科医師会一覧（案）について協議が行われたこと及び初動時の日歯想定優先応援都道府県歯科医師会一覧（案）について、災害のあった地域から遠すぎる都道府県を応援都道府県とすることは移動の観点から調整が必要ではないかとの意見を述べたとの報告があった。

(21) 日本私立歯科大学協会賛助会員の入会・退会について

1. 理事会での審議・承認を経て、下記の6社が賛助会員に入会した。
- ・ミサワリフォーム株式会社（令和7年6月1日入会）
 - ・株式会社ジャパンアート（令和7年6月1日入会）
 - ・株式会社綜企画設計（令和7年6月1日入会）
 - ・タカラベルモント株式会社（令和7年12月1日入会）
 - ・サンスター株式会社（令和7年12月1日入会）
 - ・株式会社ナカニシ（令和8年3月1日入会）
2. 下記の2社が、令和8年3月31日を以って、賛助会員を退会した。
- ・デンツプライシロナ株式会社
 - ・長田電機工業株式会社

(22) 日本私立歯科大学協会後援名義使用等許可について

- 継続実施の下記4件の事業について、後援名義又は協力名義使用を許可した。
- ・メルリックス学院主催 歯学部合同相談会
 - ・一般社団法人日本口腔検査学会主催 第3回国民皆歯科健診について考えるミーティング

- ・文部科学省主催 令和7年度医学・歯学教育指導者のためのワークショップ
- ・日本歯科医師会主催 令和7年度災害歯科保健医療体制研修会

(23) 私学関係諸団体との提携・協力及び援助について

知識と技術の向上を図り、歯科医療の発展に寄与することを目的として活動を行っている下記の5つの団体に対して、その活動を後援するため、各10万円の助成金を交付した。

- 全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会
- 全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会
- 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科技工士協議会
- 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士協議会
- 全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会